

平成28年台風10号による岩手県の企業等への影響について(企業HP・報道より)

東北大学災害科学国際研究所 人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野
 教授 丸谷 浩明 ・ 助教 寅屋敷 哲也
 2016年11月28日(月)19:00現在

・平成28年台風10号による岩手県の企業等への影響について、企業ホームページからの公表資料(出典:太字)や新聞記事・ニュース記事を引用し、概要をまとめた。下線部・強調は当研究室がつけたもの。

No	業種	企業等	被災地域	出典	概要
1	製造 (食品)	岩泉乳業	岩手県岩泉町	岩泉乳業ホームページ(11月28日現在)	8月30日の台風10号は当地において甚大な被害をもたらしました。弊社におきましては、本社事務所・工場、第二工場、第三工場が土砂や流木等が建物内に入り当初は復旧の目途が立たない状況にありましたが、工場内部の清掃作業も順調に終了し、 来年8月の本格復旧・復活へ向けての準備に入る ことになりました。 岩泉ヨーグルトは製造休止 となり、ご迷惑をお掛けいたしますが何卒ご了承くださいませ。
				河北新報10月21日	台風10号豪雨で被災した岩手県岩泉町の第三セクター「岩泉乳業」が、 2017年8月に操業を再開する見通し となった。3工場は改修と一部建て替えをして被災前と同規模の生産能力を確保する。復旧費は29億円。半分は国の支援を受け、残りは同社と町が中心となって負担する方向で検討する。
				河北新報9月8日	「岩泉ヨーグルト」などを製造する岩手県岩泉町乙茂の「岩泉乳業」が台風10号豪雨で被災し、操業停止が続いている。 同社の工場は周辺地域の生乳を集約する施設でもあるため、地域の酪農産業全体への打撃となっている 。関係者は一日も早い操業再開に向け、復旧作業に取り組む。8月30日の豪雨による小本(おもと)川の氾濫で、同社の本社工場と第2、第3工場は全て浸水した。本社工場は、入所者9人が亡くなった高齢者グループホーム「楽(ら)ん楽(ら)ん」に隣接している。同社によると、製品や生乳約800万円分が被害に遭った。タンクなどの機械や建物の修理費用を含めると、復旧に10億円以上がかかる見通しだ。 生乳を2日間かけて低温発酵させたヨーグルトは濃厚な味わいで、全国に出荷されている 。昨年は約13億4000万円を売り上げた。操業停止が長引けば、1日約400万円の売り上げを失うことになる。復旧までに少なくとも数カ月を要するという。 同社の工場は周辺地域の生乳を集約し、ろ過や冷却をする「コールドセンター」の機能も果たしていた 。宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村から1日約15トンの生乳を受け入れてきた。操業停止は地域の酪農産業全体に影響する。新しいわて農協(滝沢市)によると、一時41軒の酪農家が出荷を停止し、数十トン以上の生乳が廃棄された。道路が復旧した地域の生乳は別のコールドセンターに出荷を再開したが、 1.5倍以上のコストがかかる という。同農協畜産酪農課の立花広征課長補佐は「岩泉乳業は地域の酪農の支え。一日も早く復旧できるよう協力は惜しまない」と話す。岩泉乳業の山下欽也社長(59)は「地域の酪農家と消費者をつなぐ役割がある。つくり上げてきた地域ブランドを守るため、関係者一丸となって復旧させたい」と決意を語る。
岩泉乳業Facebook (https://www.facebook.com/iwaizumilk/)	※ 発災直後から被害・復旧状況等を発信している				
2	製造、販売、等	岩泉産業開発	岩手県岩泉町	岩泉産業開発ホームページ(11月28日現在)	台風10号災害により被災しましたが、復活に向けて頑張っています!! 「道の駅三田貝分校」は営業中です。「道の駅いわいずみ」も 11/1より一部営業を再開しました 。(スタンプラリーもOKです。) 「 龍泉洞の水 」は生産を再開しています。その他の商品についてはお問い合わせください。 本社仮事務所を開設しました。TEL 0194-32-3037 郵便は従来の住所宛で転送されます。(2016.11.1)
				岩手日報10月26日	台風10号豪雨で被災し営業を休止している岩泉町乙茂(おとも)の「道の駅いわいずみ」は 11月1日、営業を再開する 。運営する町の第三セクター岩泉産業開発(山下欽也社長)がこの2カ月、泥だしや建物の応急復旧を進めてきた。売店部門から仮オープンし、町内名産の飲料やホルモン、お菓子などを中心に扱う。 休止中の龍泉洞と並ぶ町の観光・交流拠点の復活に向けた第一歩 で、なりわい再生の弾みとなりそうだ。国道455号沿いの同施設は、敷地面積7千平方メートル、延べ床面積1430平方メートル。売店や産直、レストランを備え、2015年度は年間約15万人、約1億9千万円の売り上げがあった。小本川の氾濫で、約1・2メートルの浸水被害を受け、資機材や商品在庫など被害額は約4億円に上っている。幸い建物本体に大きな被害はなく、ボランティアの協力も受け9月中旬に泥だしを完了し、営業再開の準備を進めていた。
				河北新報10月8日	台風10号豪雨で被災した岩手県岩泉町の第三セクター岩泉産業開発は7日、 中止していたミネラルウォーター「龍泉洞の水」の生産を再開した 。日本三大鍾乳洞の一つ「龍泉洞」の中にある水をくみ上げるポンプが浸水被害に遭い、故障していた。再開初日は2リットルのペットボトル2万1000本を生産。 来週初めにも首都圏などへ出荷する 。 台風10号豪雨で一時、地底湖の水が濁って水質が心配されたが、6日に検査をクリアした。人気商品の缶コーヒー「龍泉洞珈琲」の生産も順次再開する。岩泉産業開発は、同町乙茂の道の駅「いわいずみ」と隣接する畑ワサビや短角牛の加工場も被災した。土砂が流れ込み、再開の見通しが立っていない。被害額は約10億円に上るという。
				河北新報9月19日	岩手県岩泉町の第三セクター「岩泉産業開発」が運営する特産品加工場が台風10号の浸水被害に遭い、復旧のめどが立っていない。 畑ワサビや短角牛、「龍泉洞の水」などが主力で、年間売上8億円を超える町の2次産業拠点 だった。被災で販路を失う生産者には収入不安が広がる。同社は同じ場所での操業再開を目指し、建物の復旧を急ぐ。
岩泉産業開発Facebook (https://www.facebook.com/ryusendowater)	※ 発災直後から被害・復旧状況等を発信している				

※ 以下は、報道記事の転記のみである。

No	業種	企業等	被災地域	出典	概要
1	製造 (自動車部品)	岩手アライ	岩手県岩泉町	河北新報10月31日	<p>台風10号豪雨で甚大な被害が出た岩手県岩泉町で、工場が被災した自動車部品製造の「岩手アライ」がほぼフル稼働の生産へと回復させた。同社は国内外に高品質の部品を供給してきた。被災直後、主要メーカーの社員が復旧作業の応援に続々と駆け付け、早期の生産再開を果たした。岩手アライは荒井製作所(茨城県つくば市)が1985年に設立した生産子会社。従業員233人が働き、オイル漏れを防ぐオイルシールやエンジンバルブなどを製造する。グループのマザー工場として国産車から海外の高級車、最高峰のF1マシンに至るまで部品を供給する重要拠点だ。台風被害の2日後、トヨタ自動車東日本(宮城県大衡村)の20人を皮切りに、トヨタ自動車、ホンダ、ヤマハ発動機が社員を続々と投入した。</p> <p>最大約40人態勢の応援チームの方針は「やれるところからやる」。メーカーごとに分かれている検査工程の復旧にも会社に関係なく取り組んだ。ヤマハのオートバイ生産などに遅れが生じたものの、岩手アライは被災から約2週間後の9月15日に生産を再開した。東日本大震災や熊本地震の経験から、災害に強いサプライチェーン構築は各社共通の課題。ホンダは今回、「状況把握と早期復旧に向け、一刻も早い現地入りと現場の判断を重視した」(広報担当者)という。</p> <p>岩手アライ敷地内に年度内に完成予定のトヨタ車向け新工場も、打撃を受けた地域経済の光明となる。同社管理部の上中延隆課長代理は「各社の団結力と素早い決断に感謝している。雇用を守り、替えの効かない製品を作り続ける」と意気込む。</p>
2	製造 (食品)	十文字チキンカンパニー	岩手県二戸市	岩手日報9月1日	<p>鶏肉食品製造業の十文字チキンカンパニー(二戸市)では、軽米町や久慈市山形町、野田村の直営農場や契約農家5カ所で、浸水被害などにより食用鶏のひななど計約1万2千羽が死んだ。同社によると、被害額は約300万円に上る。</p>
3	小売	観光、商工業者	岩手県久慈市	河北新報10月2日	<p>台風10号豪雨で浸水し、休館を余儀なくされた久慈市の観光施設「あまちゃん」ハウスが1日、展示スペースを縮小して再開した。</p> <p>施設は豪雨で高さ2メートルまで浸水し、撮影小道具など展示品約300点のほとんどが泥をかぶるといった被害に遭った。当面はスペースが従来の半分程度、展示品も約2割にとどまるが、市の職員やボランティアが小道具を水洗いしたり泥を掃き出したりして、被害から約1ヶ月で再出発にこぎ着けた。本格復旧は電気設備などの整備に約1400万円が必要で、見通しが立っていない。</p>
				河北新報9月17日	<p>NHK連続テレビ小説「あまちゃん」に登場する喫茶店のモデルで、台風10号豪雨で浸水被害に遭った久慈市本町の「喫茶モカ」が17日営業を再開する。一時は閉店を考えたが、常連客や全国のファンからのエールに背中を押された。店主の樋沢正明さん(68)は「多くの方々に元気な姿を見せたい」と張り切る。</p>
				岩手日報9月2日	<p>久慈市の中心商店街は、台風10号の暴風雨で大きな被害を受けた。連日、泥かきに追われる商店主からは1日、「東日本大震災よりひどい」「商売再開の意欲が出ない」と悲痛な声が漏れ、国に支援を要望。ドラマ「あまちゃん」で脚光を浴びる観光業にも影響を与えそうだ。「みんなひっくり返ってしまった」。同市中央の居酒屋三男坊の店主(63)は嘆いた。店は170センチほど浸水し、商売に不可欠な冷蔵庫、冷凍庫、製氷機などが使えなくなった。「補助でも出るなら前向きに考えるが、そうでなければ(再開の)意欲が出ない」と肩を落とす。一方、久慈駅前で8月6日に新装開店したばかりの「あまちゃんハウス」は、ドラマあまちゃんの撮影で使われた貴重なセットや衣装など展示品約300点のほぼ全てが被災。街なかの観光拠点として期待されているが、再開のめどは立っていない。</p>
4	水産	水産業関連施設	岩手県沿岸市町村	河北新報11月2日	<p>台風10号豪雨で壊滅的な被害が出た岩手県のサケふ化場4施設で、本年度生産予定だった稚魚計約8900万匹のうち、代替生産できるのは約6割の5500万匹にとどまる見通しであることが分かった。採卵に必要な秋サケの回帰シーズン最盛期を前に、稚魚の生産予定は被災を免れたふ化場に割り当ててるが、各施設で卵の収容量に限度があり全てをカバーできない。来春放流の稚魚が回帰する3~5年後の漁獲量に影響が出るとみられる。</p>
				河北新報9月17日	<p>台風10号豪雨が岩手県のサケふ化事業に深刻な打撃を与えている。県によると、ふ化場20カ所のうち下安家ふ化場(野田村)など4施設が浸水や土砂流入で壊滅的な被害に遭った。採卵に必要な秋サケの回帰ピークとなる11月までの再開は難しい状況だ。県が来春の放流を予定する稚魚は4億30万匹で、4施設はその2割以上を生産する計画だったため、県は割り当ての見直しを迫られる。</p>
				岩手日報9月2日	<p>釜石市箱崎町の仮宿(かりやど)漁港では漁船や作業テントに大きな被害があった。流木などの漂流物も散乱し、同漁港での漁の再開はめどが立っていない。</p>
5	農業	新岩手農協	岩手県滝沢市	岩手日報9月1日	<p>新岩手農協(本部・滝沢市)によると、生乳を集めて一時保管する岩泉乳業のクールセンターが機能できず、宮古市や岩泉町などの酪農家の生乳は当面廃棄せざるを得ない状況。道路も寸断されている影響で、他地域へ生乳を運ぶのも難しいという。</p>
6	医療	病院、診療所	岩手県岩泉町	河北新報10月4日	<p>台風10号豪雨で被災した岩手県岩泉町の安家地区にある町の安家診療所が浸水被害に遭い、一時閉鎖されている。地区唯一の医療機関で医師が隔週で訪れ住民を診察していた。台風被害から1ヶ月が過ぎても復旧の見通しは立たず、地域からは早期の診療再開を願う声上がる。</p>
				岩手日報9月21日	<p>岩泉町唯一の病院の済生会岩泉病院(柴野良博院長、80床)は、台風10号によるライフラインの寸断などで中止していた入院患者の受け入れを26日から再開する。県内各地の病院に移っていた元入院患者52人を対象に順次受け入れる。県が20日に盛岡市内丸の県庁で開いたいわて災害医療支援ネットワーク会議で示した。断水や道路の寸断の解消を受けた再開で、同日から同院が転院の調整に当たっている。中止していた透析患者の外来診療も同日再開しており、26日の入院再開で従来の医療体制が回復する。同院の入院患者は1日から2日にかけて、自衛隊ヘリや防災ヘリで、災害派遣医療チーム(DMAT)などが矢巾町の県消防学校に設置した広域搬送拠点臨時医療施設(SCU)に搬送。盛岡市や奥州市などの県内18病院に転院していた。</p>